

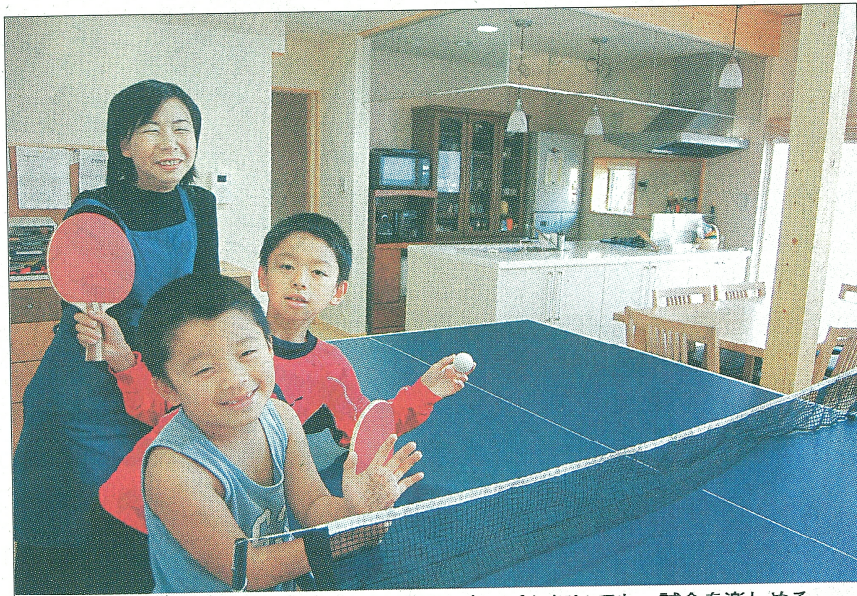
ステキわが家流

卓球をしながら家族だんらん。今年3月に完成した札幌市豊平区のO・Nさん(45)宅の居間には、卓球台が置いてある。夕食前や寝る前、気軽にラケットを握り、みんなで汗をかく。「居間で家族一緒に過ごす時間を長くしたい」というNさん一家。卓球台のおかげで、ピンポン玉のように会話ははずむ。

〔卓球でだんらん〕



自然との調和を考えた土色の外壁と木製のカーポート



21畳の居間は、卓球台を置いても広々。キッチンにいても、試合を楽しめる



野球ごっこもできる2階のホール。いすが並んだ場所は勉強スペース

・大募集！

古い民家を改造したり、体や環境に優しい建材を使ったり、デッドスペースを有効に活用する…。ユニークなマイホーム生活を楽しんでいる方を募集しています。自薦、他薦は問いません。住所、氏名、年齢、工夫した点を簡単に書き、〒060・8711 北海道新聞生活部日曜版班(あて先の住所は不要)までお寄せください。ファクスの方は011・210・5607、メールはsukoyaka@hokkaido-np.co.jpへ。

いつでもみんなで汗

家族は妻のSさん(40)と13、11、7歳の男の子の5人。約250平方メートルの土地に新築した家

は、緑あふれる閑静な住宅街の中にある。延べ床面積約150平方メートルの2階建てで、5LDK

の間取りだ。

設計段階から、21畳の居間に卓球台の専用スペースを確保した。建設費は設計費込みで2400万円。卓球台は約3万円で、通信販売で取り寄せた。

卓球経験がほとんどない夫婦がなぜ卓球を。「家族みんなでできるスポーツだから」とS

さん。実際に住んでみて、学校から帰った子供たちはもちろん、帰宅した夫が頻繁にピンポン玉を追う姿に驚いたという。「お母さん仲間が遊びに来て、つい始めたりするんです」

卓球台を置いたのは、子供たちに思い切り、体を動かしてほしかったからでもある。杜宅に住んでいたころ、子供たちが現在の半分ほどの広さの居間でキヤッチボールをするため、「ボールが飛び交う下でお茶を飲む

感じでした」とSさんは笑う。新しい家の2階には、野球ごっこやボールけりもできるよう、廊下の代わりに幅2・7メートル、長さ9メートルのホールを造った。

家の随所に、10数年前まで1級建築士として働き、多くの家を見てきたSさんの経験が生きている。細かい希望までかなえてもらえるよう、設計はかつて勤めていた北工房(中央区)に依頼した。

取材中も休む間もなく体を使って遊ぶ子どもたち。Nさん宅は、小さな体育館のようだった。(矢田智佳子・フリーライター)